

[成果情報名] 加温施設栽培におけるビワ「涼風」の早期多収のための芽かき法

[要約] 加温施設栽培ビワ「涼風」の若木において、早期に収量を多くあげるためには、果こん枝を2本残す弱芽かき方法が、果こん枝を1本残す強芽かき方法に比べ、10 a 当たり収量が約1.5倍程度となり多い。

[キ - ワ - ド] 加温施設栽培ビワ、「涼風」、若木、収量、芽かき

[担当] 長崎果樹試・常緑果樹科

[連絡先] 電話 0957-55-8740、電子メール takami@pref.nagasaki.lg.jp

[区分] 果樹

[分類] 指導

[背景・ねらい]

加温施設栽培におけるビワ新品種「涼風」において、若木の収量を早期にあげるための芽かき法を確立する。

[成果の内容・特徴]

- 1 . 果こん枝の芽を2本残す弱芽かきは、果こん枝の芽を1本残す強芽かきに比べ、枝数が多く、着房率が高く、1樹当たり収量が多い。
- 2 . 果こん枝の芽を2本残す弱芽かきは、果こん枝の芽を1本残す強芽かきに比べ、樹冠占有面積当たり枝数が多く、処理を繰り返すことによりその差が大きくなる。そして、10 a 当たり収量が約1700kg と対照の1.5倍になる。
- 3 . 果こん枝の芽を2本残す弱芽かきは、果こん枝の芽を1本残す強芽かきに比べ、果実重がやや小さくなる傾向であるが、果肉は軟らかくなる傾向にある。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . 樹勢の良い若齢樹（7年生）を供試した結果であることに留意する。
- 2 . せん定については、交差したり重なった枝をせん除しており、整枝については、6月に側枝の誘引を徹底しているため、せん定、誘引をしない場合は適応しない。
- 3 . 袋かけ後の着房率は両処理とも65%程度、摘果は3果とした。

[具体的デ - タ]

表1 芽かき方法の違いによる生育と1樹当たり収量

(2001 ~ 2002年)

処 理	樹 高		樹冠占有面積		枝 数		着房率		1樹収量	
	2001 (m)	2002	2001 (m ²)	2002	2001 (本)	2002	2001 (%)	2002	2001 (kg)	2002
弱芽かき ^z	2.7	2.4	7.9	8.9	175	213	88.2	82.5	17.2	20.2
強芽かき ^y	2.6	2.1	5.5	7.1	105	125	82.2	71.0	11.6	13.0

^z 弱芽かき ; 果こん枝を原則として2本残す。

^y 強芽かき ; 果こん枝を原則として1本残す。

表2 芽かき方法の違いによる単位面積当たりの枝数と収量

(2001 ~ 2002年)

処 理	樹冠占有面積 当たり枝数		樹冠占有面積 当たり収量		10 a 当たり収量 ^z	
	2001 (本/m ²)	2002	2001 (kg/m ²)	2002	2001 (kg/10a)	2002
弱芽かき	22.6	23.9	2.2	2.3	1445	1697
強芽かき	19.1	17.6	2.1	1.8	974	1092

^z 10a 当たり栽植本数が84本として換算した10 a 当たり収量

表3 芽かき方法の違いが果実品質に及ぼす影響

(2001、2002年の平均値)

品 種	1果平均重 (g)	種子数 (個)	種子重 (g)	糖 度 (Brix)	酸含量 (g/100ml)	果肉硬度 ^z (g/cm ²)
弱芽かき	58.0	6.0	9.9	11.5	0.21	338.6
強芽かき	62.1	6.1	10.5	11.9	0.20	370.1

^z ユニバーサル果肉硬度計

[その他]

研究課題名 : ピワ新品種「涼風」「陽玉」の栽培技術の確立

予算区分 : 県単

研究期間 : 平成15年度 (平10 ~ 15)

研究担当者 : 高見寿隆、山下義昭

発表論文等 : なし

